

(学校運営協議会・報告様式)

令和6年度 第2回 栄小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年 7月 12日(金) 19:00 ～ 20:00

2 場 所 図書室

3 学校長より

- ・今回は、教育支援課より不登校支援アドバイザー橋本先生にお越しいただき不登校支援について協議をしていくので、ご意見をよろしくお願いします。

4 協議事項

〈不登校支援について〉

①不登校支援アドバイザー橋本先生より

- ・不登校は増加しているが、突然起こるのではなく、様々な理由から心のエネルギーが低下すると起こる。
- ・不登校の要因は2～3つの理由が重なっている場合も少なくなく、原因が分からないことも多い。また、小さな「きっかけ」から広がっていくこともある。
- ・大人の笑顔・元気等が基盤となり、子どもの笑顔や元気につながる。学びの場、つながりの場が大事である。
- ・子どもは、毎日見聞きする物に染まっていく(心に蓄積されていく)。大人の肯定的な働きかけや生活リズムを整えること(早寝・早起き・朝ごはん)が大事であると共に、デジタル機器に振り回されないことも大事である。

(委員より)

- ・学校に登校できている子どもの中にも、行きたくないと思っている子もいるのではないか。
- ・幼児期の集団遊びがなくなってきたことで、体だけでなく心の成長も育ちにくくなっているのではないか。
- ・子どもたちの周りの環境の変化(デジタルの生活等)により、物事を自分で考えなくてもよい環境が増えており、それが不登校に関係しているのかもしれない。
- ・心のエネルギーの低下や奥深い要因で不登校になっていったかもしれない。しかし、それらを解消し、その子自身が、のびのびと学べるように改善していく必要があるのではないか。
- ・義務教育は、子どもが勉強できる場を大人が提供するという意味で、大人の義務である。
- ・不登校の子どもに保護者が「学校に行かなくていいよ」と言ったとしても、「本当は学校に行きたい」という子どもの気持ちがあるなら見逃してはいけない。
- ・学校へ行けるようになった子は、安心できる居場所ができたからだと思う。
- ・保護者の心の安定が、子どもの心の安定につながる。
- ・大人自身が幸せに暮らすことが大切である。子どもは幸せに暮らしている大人を見て変わっていく。

5 委員長より

有意義な場となり、ありがとうございました。

6 その他

- ・地域の危険箇所について
- ・教育講演会の御案内
- ・第3回学校運営協議会の確認